

びわこ文化公園都市将来ビジョン改定のポイント

現行ビジョンの骨格

I. 「3つの検討の視点」

II. 「5つの将来像」

III. 「取組の方向性」

IV. 「支える仕組み」

改定のポイント

新たな視点を追加



将来像のアップデート



+ 新たに将来像を支える「プラットフォーム」を設定

評価と見直し方法



(新)「施設連携協議会」



1. 「3つの検討の視点」「5つの将来像」について



改定後ビジョン

現行ビジョン

3つの検討の視点

- ①利用・交流人口の増大
- ②立地施設・機関の持つ機能の維持向上
- ③新しい価値の創造・発信の促進

追加

④持続可能な社会の形成

- ・「SDGs」「環境」等新たな社会の要請
- ・『将来世代への責任』

5つの将来像



アップデート

持続可能な
成長へ**挑戦**
する場

「公共交通」

誰もが「行きたい場所」「行きたい時」に「自由に移動」できるエリア

「情報発信」

知りたい情報へのアクセスが容易に行えるエリア

追加

- ・「公共交通」「情報発信」の基盤(プラットフォーム)の充実が必要
- ・『バスを使った施設の横断的な使われ方』
- ・『一目でわかる情報発信』

2. 「取組の方向性」について



1. これまでの取組に対する評価

【短期】・・・概ね実施できている。連携を強化しながら今の取組を継続していく

【中長期】・・・十分でない取組があった。主な要因は以下のとおり

< 類型① > 短期的取組の中で、既に方向性に沿う事業が実施されている

< 類型② > 「理念的な事柄についての検討」であり、具体的な取組に落としづらい

< 類型③ > 取組(検討)の中心的な役割を担う主体が明確化されていない

見直しのポイント

①短期との重複を避ける

②具体的な検討内容とする

③主体を明確にする

2. 新たに設定した「プラットフォーム」に「取組の方向性」を設定

【公共交通】

(例)

< 短期 > 路線バスの利便性向上に向けた取組の実施

< 中長期 > 公共交通を使った広域アクセスの向上に向けた検討

【情報発信】

(例)

< 短期 > 立地施設間での瞬時の情報共有の実施

< 中長期 > デジタルツールを活用した効果的な広報の検討

3. 将来像の実現をさらに推進するため、びわこ文化公園都市を取り巻く環境変化に対応し、「各取組の方向性」の展開を、より柔軟に協議・決定していくための**新たな機能**が必要。

3. 「支える仕組み」について



○「施設連携協議会」を組織拡大、機能強化し、PDCAを実施する

【組織拡大】

現在は立地している施設で構成する組織であるが、公共交通事業者、びわこ文化公園都市を活動拠点とする団体等、びわこ文化公園都市の発展に寄与する関係団体等を新たな構成員に加える

【機能強化】

各取組の方向性の展開について協議し、決定する機能を追加する

【指標設定】

各取組の進捗を定量的に計測するため、びわこ文化公園都市を俯瞰した視点や、取組ごとの視点から指標を設定し、ビジョン推進のPDCAを実施する

